

環境経営レポート 2022

(対象期間:2021年度⇒2021年11月～2022年10月)

発行2022年12月16日

SANSHIN
production of the precision parts



® 環境省

エコアクション21
認証番号0000568

三鎮工業株式会社

目次

<u>【1】 会社の概要</u>	1ページ
<u>【2】 環境経営方針</u>	2ページ
<u>【3】 環境経営目標</u>	3ページ
<u>【4】 環境経営計画</u>	3ページ
<u>【5】 環境経営目標の実績</u>	4ページ
<u>【6】 環境経営計画の取組結果とその評価</u>	4ページ
<u>【7】 代表者による全体評価と見直しの結果</u>	7ページ
<u>【8】 次年度の環境経営目標及び環境経営計画</u>	7ページ
<u>【9】 環境関連法規への違反、訴訟等の有無</u>	8ページ



【1】会社の概要

(1) 事業所名及び代表者名

サンシンコウギョウ カブシキカイシャ

三鎮工業株式会社

代表取締役社長 ヤマダ ヒロシ
山田 浩司

(2) 事業所住所

本社 〒205-0023 東京都羽村市神明台4-10-10

第二工場 〒205-0002 東京都栄町3-3-5 (2022年11月設置)

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 代表取締役社長 山田 浩司
担当者 環境管理責任者 山田 浩司 (兼任)
連絡先 電話番号 042-513-0718 (本社)
FAX番号 042-513-0719 (本社)
E-mail info@sanshin-i.com
ホームページURL https://sanshin-i.com
facebook https://www.facebook.com/sanshinkogyo/

(4) 事業の内容

光学機器、空調機器、医療機器、自動車、カーナビ
デジカメ、モーター等に用いられる精密金属部品の挽物加工

(5) 事業の規模

2022年10月決算	本社	第二工場	合計
従業員数	34名	3名	37名
敷地面積	1,652.90m ²	1,883.25m ²	3,536.15m ²
建物面積	1,760.53m ²	2,149.88m ²	3,910.41m ²
売上額(税抜)	1,691百万円	—	1,691百万円
製品売上高	1,295百万円	—	1,295百万円
切粉売上高	389百万円	6百万円	395百万円

※2022年5月より第二工場の一部のみ操業開始

※売上額は今期のみ本社に合算して計上

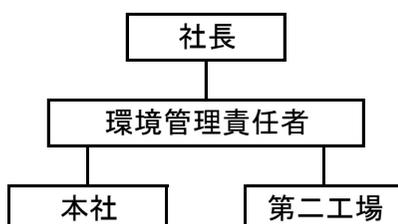
(6) 認証・登録の範囲

全社 (本社・第二工場)

全活動 (金属機械加工)



(7) 環境実施体制



【2】環境経営方針

環境経営理念

私たちは、エアコンや自動車等の小径精密切削部品を製造する事業活動において常に改善活動を行うことで省資源、省エネを推進し、時代と共に多様化するお客様のニーズに柔軟にお応えできるよう取り組んでまいります。

そして、皆様に「信用される会社」「必要とされる会社」であり続けられるよう努力を重ねてまいります。

行動指針

1. 私たちは、全ての事業活動において生じる、環境への負荷を低減するために環境経営システムを確立し、環境活動の継続的改善を行います。
2. 私たちは、全ての部門で二酸化炭素排出量の削減、購入電力の削減、廃棄物排出量の削減、水使用量の削減、化学物質使用量の削減、そして自らが生産・販売する製品の環境性能の向上及びサービスの改善について取り組みます。
3. 私たちは、環境に関する法律、規制、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守し、地球環境との調和、並びに汚染予防に努めます。
4. 環境経営方針は、全ての従業員、及び当社に関わる人々に周知され、環境保全活動推進への意識を高め、よき地域住民として地域社会に貢献します。
5. 環境経営方針は、エコアクション21の環境経営レポートの一部として、広く一般に公表します。

制定 2006年1月16日

改訂 2019年1月25日

代表取締役社長

山田 浩司 

【3】環境経営目標

2017年度版ガイドラインに則った取りまとめ表にて算出した数値を基に、環境経営目標を設定している。

	環境目標	目標値
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [※]	前年度の月平均-1%以下 10.09 [kg-CO ₂ / 売上百万円]
1(2)	購入電力の削減	前年度の月平均-1%以下 884.17 [kWh / 売上百万円]
2	廃棄物等排出量の削減	前年度の月平均-1%以下 6.81 [kg / 売上百万円]
3	水の使用量の削減	前年度の月平均-1%以下 268.68 [ℓ / 売上百万円]
4	化学物質使用量の削減	前年度の月平均-1%以下 5.63 [kg / 売上百万円]
5	製品及びサービスの向上 改善提案件数	40 [件/年] (うち有効提案件数 35 [件/年])

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 本 社 : 0.000kg-CO₂/kWh (プレミアムグリーンパワー(株))
第二工場: 0.452kg-CO₂/kWh (東京電力エナジーパートナー(株))

【4】環境経営計画

1(1)、二酸化炭素排出量の削減

- エコドライブを意識する
- 安全運転を心掛ける(急ブレーキ急発進をしない)

1(2)、購入電力の削減

- 不要な電気等の電源オフ
- デマンド監視装置による節電
- 営業日の調整(受注と生産数量を管理し、無駄な休日出勤を減らす)
- 新たな省エネ策の検討と実施
- エアコン設定温度の順守

2、廃棄物等排出量の削減

- ごみの分別の徹底
- ウエス使用枚数の抑制
- 廃液の削減 ※(4)化学物質使用量の削減と同じ
- 新たなゴミ削減策の検討と実施

3、水の使用量の削減

- 個人目標の設定・掲示
- 個人目標の達成度確認
- 製造工程(バレル作業)での使用水のムダ防止

4、化学物質使用量の削減

- 使用時以外は、洗浄機の電源をおとす(蒸発抑制)
- 廃液を蒸留し再利用する

5、製品及びサービス向上

- 改善提案の提出呼びかけ
- 改善提案賞の表彰

【5】環境経営目標の実績 (2021年11月～2022年10月の月平均値)

◎ 目標達成 ○ 詳細項目を最低1つは達成 ✕ 目標未達成
→詳細は【6】参照

	環境経営目標	目標値	結果	評価
1(1)	二酸化炭素排出量の削減※ [kg-CO ₂ /売上百万円]	10.09	54.16 [kg-CO ₂ /売上百万円] 目標値 +431.5%	○
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	884.17	881.63 [kWh/売上百万円] 目標値 -1.3%	◎
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	6.81	6.41 [kg/売上百万円] 目標値 -6.9%	◎
3	水の使用量の削減 [ℓ/売上百万円]	268.68	254.85 [ℓ/売上百万円] 目標値 -6.1%	◎
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	5.63	5.99 [kg/売上百万円] 目標値 +5.3%	○
5	製品及びサービスの向上 改善提案件数[件]	40 (うち有効提案件数 35)	53 [件] (39[件]) 目標値 +13 [件] (+4 [件])	◎

※購入電力の排出係数 ⇒ 本社:0.000 kg-CO₂/kWh , 第二工場:0.452 kg-CO₂/kWh

計算根拠 ◆二酸化炭素総排出量 : 91,267.52 kg-CO₂

◆購入電力総量 : 1,453,049.00 kWh

◆廃棄物総排出量(有価物以外) : 10,505.20 kg(一般廃棄物:3,857.20 kg / 産業廃棄物:6,648.00 kg)

◆水の総使用量 : 420,500 ℓ

◆化学物質総使用量 : 9,850 kg

◆原単位で使用する総売上高は、製品+切粉売上のみ : 1,655百万円

⇒月々原単位にて算出し、それを平均した数値を使用

【6】環境活動計画の取組結果とその評価

(2021年11月～2022年10月)

1つひとつの評価をする前に、今年度は特殊な事情があったので記載する。

昨年度末の段階で、2022年の4月頃に第二工場を立ち上げる予定であったが、購入した建物の状態に問題があったり、コロナ禍での増改築であるための資材調達問題があったりで、予定通りの引き渡しが難しい状況となった。しかし、発注済みの機械設備の納品や得意先からの受注は止めることが出来ないため、増改築している第二工場の傍らにスペースを取り、機械加工のみの仮操業を行うこととなった。実際に増改築が終わり、建物の引き渡しを受けたのは2022年10月末日である。

従って今期は、第二工場加工・洗浄した製品を本社に運び、検査・出荷を行わなければならない、本社と第二工場を完全に分離した状態で管理することが不可能であり、分けて評価できる部分と、全社でしか評価できない部分が混在している。

1(1)、二酸化炭素排出量の削減

◎ 今年1台営業車を追加購入したが、利用者のエコドライブや、同じ方面の取引先を同じ日に合わせて回るスケジュール管理の結果、ガソリンによる二酸化炭素排出量は3年連続ほぼ横ばいで押さえることが出来た。

◎ 毎年個人目標を食堂に掲示しているが、他の従業員の目標を参考にすることにより、社内にお湯のムダ使いをしないという意識が高まり、夏場にはガス使用量0となる月が2回もあった。

年間二酸化炭素排出量[kg-CO₂]

	2018年度	2019年度	2020年度	昨年度比
ガソリン	11,640.99	11,737.56	11,451.32	-2.4%
ガス	503.63	448.36	206.79	-53.9%
総排出量	12,144.62	12,185.92	11,658.11	-4.3%

⇒ ガソリンとガスに関しては、目標を大きく達成している。しかし今回、二酸化炭素排出量としては、目標値を大幅に超えてしまっている。この原因は、次の1(2)に記載する。

1(2)、購入電力の削減

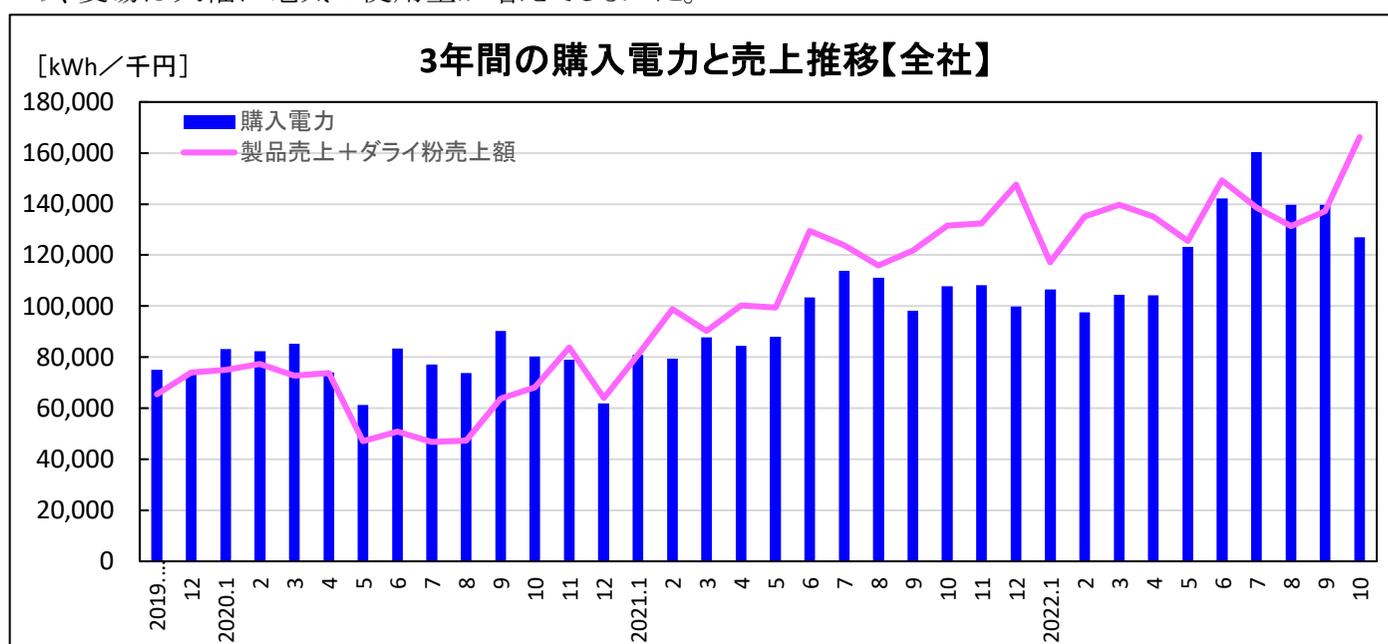
※ 今年度もプレミアムグリーンパワーでは再生エネルギーを活用した電気(右図参照)を利用することで、電力消費による二酸化炭素排出量が 0kg-CO₂となっている。

第二工場もこのプレミアムグリーンパワーを…と考えていたが、現在は新しい契約の受付を中止しており叶わなかった。よって、東京電力エナジーパートナー(排出係数:0.452 kg-CO₂/kWh)と契約を結んだため、電力による二酸化炭素の排出量が増えてしまう形となった。(1(1)の増加原因)

第二工場は立ち上げ過程であり、来期も電気使用量・二酸化炭素排出量は増えてしまう見込みである。



◎ 工場に機械が目一杯設置されている状態であれば、購入電力と売上(製品+ドライ粉)額はほぼ連動していたが、今年の5月より第二工場の増改築と、その傍らでの機械加工・洗浄工程の稼働が始まったため、夏場は大幅に電気の使用量が増えてしまった。



◎ 2022年の秋より受注の低下が見込まれたため、全社で土曜出勤を減らせるよう稼働設備を調整し、さらに製造部では残業を申請制にすることで、無駄な出勤・残業の削減を実施。

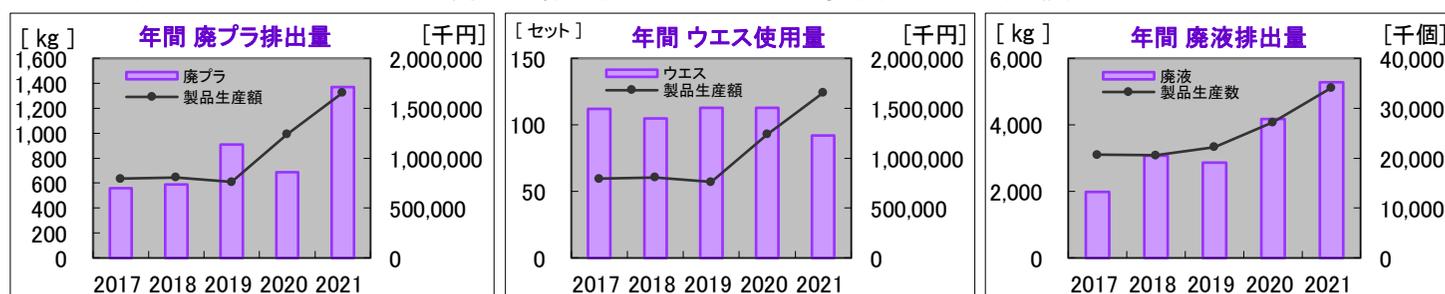
⇒ 今期は売上が好調で、本社の稼働増加分も第二工場での新たな購入電力量をもカバーすることができ、売上百万円当たりの目標値は達成した。

2、廃棄物等排出量の削減

× 今年度は第二工場に18台の機械を搬入したため、梱包材等の廃棄に伴い廃プラの量が増加した。

◎ 昨年7月にウエスの使用方法を見直し、使用量の2割削減に成功したが、それ以降削減した状態をキープできている。

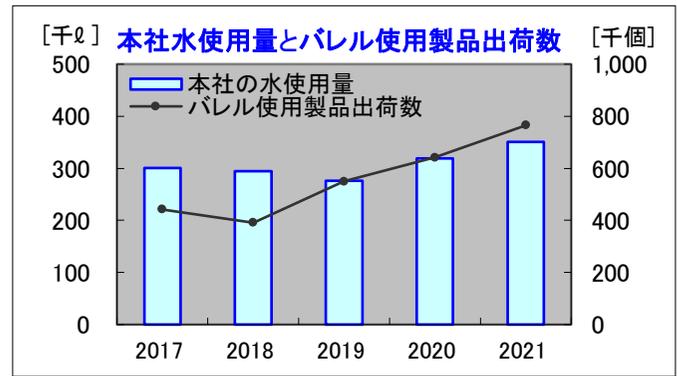
× 昨年の夏以降に発生している洗浄不良について、未だ原因がつかめていない。そのため、再洗浄等の対応が行われることもあり、廃液増加傾向のままである。(詳細は4に記載)



⇒ 今年度の廃プラ増加については、やむを得ない部分が多い。ウエスは、現状第二工場の分も本社分でまかなえており、このまま良い状態をキープできるよう取り組む。結果としては、売上百万円当たりの目標値を達成した。

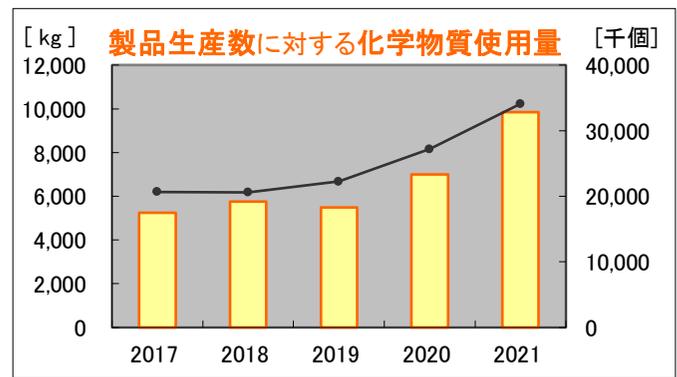
3. 水の使用量の削減

- 今年度も個人目標の掲示を継続し、節水に取り組んだ。目標に掲げられた内容はほぼ達成されていて問題なし。
- ◎ 第二工場の水使用量は、ほぼ増改築工事によるものであるため、本社のみの結果で評価すると、バレル作業(水を使用する作業)が必要な製品の出荷数が年度比19%増となっているのに対し、水使用量は9.7%増で抑えられていて良かった。
- ⇒ 個人目標による1人ひとりの節水意識と、バレル作業者の無駄のない作業により、目標を達成。
電力購入量同様、売上が好調だったことで第二工場の水使用量もカバーすることができ、売上百万円あたりの目標値も達成した。



4. 化学物質使用量の削減

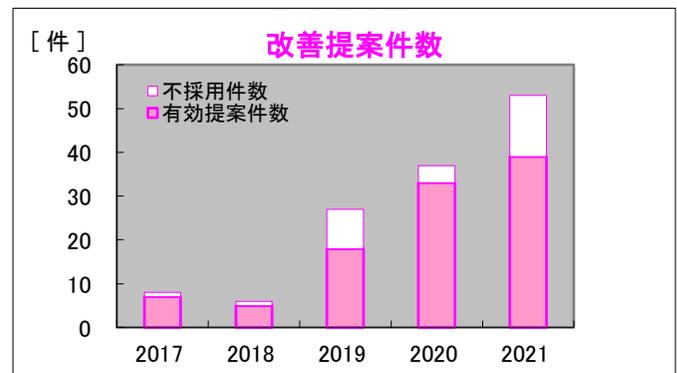
- ◎ 洗浄機使用時以外、電源をオフにすることは徹底されていた。
- ◎ 再利用できる廃液はそのまま処分せず、蒸留後に再利用されていた。
- × 2に少し記載したが、昨夏から原因不明の洗浄不良に悩まされており、洗浄液を早めに交換してみたり、洗浄不良部分を磨いて再洗浄を試みたりと、色々な策を講じているが解決に至らない。
従って、今年度は実際の生産数より多くの製品を洗う状態が続いており、生産数の伸び率より化学物質使用量の伸び率の方が高くなってしまっている。



- ⇒ 洗浄不良対応だけでなく、第二工場への新しい洗浄機の導入もあり、化学物質の使用量は増加傾向である。売上百万円あたりの目標値に対しても、売上の伸びでカバーすることができず未達成となってしまった。
来年度は何としても洗浄不良の原因を見つけ出し、通常の洗浄レベルを取り戻したい。

5. 製品及びサービス向上

- ◎ 年に3回ある評価制度と合わせて改善提案書を提出することが定常とつつあり、さらに気付いたときにも適宜提出する状況が出てきている。
- 外国人からの提出率も良くなってきている。中には外国人だからこそ感じる部分の提案もあり、従業員の約半数を外国人が占める当社にとっては非常に有難い提案となっている。
- ◎ 賞与に合わせた年2回の表彰についても、母数となる従業員数の増加、改善提案提出件数の増加、採用件数の増加、受賞者の増加…とさらに活気付いてきている。



- ⇒ グラフを見ても、評価制度と組み合わせた2019年より大きく改善され、その後も順調に推移している。また所属部署の改善が中心だったところから、他部署や労働環境に関するものの提案も増え、全社的に改善が進められている。
37.5%を占めていた外国人労働者は44.7%となり、さらに外国人に優しい環境作りが必要であると感じており、外国人の視点での改善提案が増えることでそれを加速させたい。
また、改善提案制度は軌道に乗ったと判断しているので、次年度からは不適合品比率を目標に掲げて頑張っていきたい。

【7】 代表者による全体評価と見直しの結果

春から一気に第二工場をスタートさせる予定が、様々な問題によって大幅に遅れてしまった。しかし、確定している受注があり、発注済み機械設備の受け入れ日も決まっている、加工も進めなければならないという状況下で、苦肉の策として増改築工事を行っている1階の片隅に間借りする形で、機械加工を開始することとした。そのため、環境活動を進める上ではキチンとしたデータを取ることが難しくなってしまった。

しかし終わってみれば、昨年度の勢いのまま売上は右肩上がり、昨年度比33%増を達成。従業員も最終的に12名の増加となり、過去最高の38名となった。従業員が増えたことで、改善活動がさらに活発になり、環境活動に目を向けてくれる人も増えてきた。分別や5S意識の高い従業員が数名入ったことで、全社的に意識が高まったことが大きい。分別に迷い溜まっていたゴミを1つずつ片付け、作業場が広く使えるようになったことで、昨年度問題となった小さなミスへの低減にも繋がったように感じる。

売上百万円あたりの目標値については、売上の増加率大きかったため、第二工場の増加分についてもほぼカバーすることができ、概ね達成した。残る問題は、化学物質の使用量である。昨夏から発生している洗浄不良の原因が、未だ掴めていない。洗浄不良が発生しやすい材料や洗浄カゴの種類は特定されており、洗浄機メーカーとも相談して対応しているが、解決に至っていない。社内では磨く時間も人もムダになっており、1日でも早く解決したい。

また、契約できた電力会社の問題ではあるが、第二工場ではどうしても二酸化炭素が発生してしまうこととなった。しばらくは少ない人数での操業となるので、節電を意識して行動をしていく。

【8】 次年度の環境経営目標及び取組内容

《環境経営目標》

	項目	2021年度実績	2022年度目標	2023年度目標	2024年度目標
1(1)	二酸化炭素排出量の削減 [kg-CO ₂ /売上百万円]	54.16	第二工場の1年分のデータを元に設定予定		
1(2)	購入電力の削減 [kWh/売上百万円]	881.63	884.17	875.24	866.31
2	廃棄物等排出量の削減 [kg/売上百万円]	6.41	6.81	6.74	6.67
3	水の使用量の削減 [ℓ/売上百万円]	254.85	268.68	265.96	263.25
4	化学物質使用量の削減 [kg/売上百万円]	5.99	5.63	5.58	5.52
5	製品及びサービスの向上 改善提案件数[件]	53 (うち有効なもの 39)	-	-	-
	不適合品比率[%]	1.32	1.00	0.98	0.96

※ 購入電力の排出係数 ⇒ 本社:0.000 kg-CO₂/kWh , 第二工場:0.452 kg-CO₂/kWh

- ・ 2022年10月末日で第二工場の正式引き渡しがあったが、あと数ヶ月は製造部のみの稼働が続く予定となっている。(来春には本格稼働見込み)
- ・ 上記の第二工場の状況を考慮し、2022年度の目標は今年度の目標を継続する形で様子を見たい。そして、1年間の集計結果を受けて、次年度にしっかりした目標を立て直す。
- ・ 製品及びサービスの向上については、指標を変更してさらなる向上を図る。

《取組内容》

第二工場は当社として初めての支店であり、本社で感じていた改善点を反映した形でスタートが来ている。社員の中でも3Sが得意な人を配置することで、後から従業員が増えても3Sが乱れない下地作りを行っている。また、第二工場で成功したポイントを、本社にフィードバックすることも視野に入れている。

中国のロックダウンの影響で次年度は受注ペースが落ちる見込みであり、従業員1人ひとりがエコを意識し、毎年取り組んでいる環境経営活動だけでなく、新たな活動を見出せるよう取り組んでいく。

さらには、受注が落ちている時にこそ内部の問題に目を向け、在庫管理システムの構築や不良率の低減に力を入れる1年とする。

【9】環境関連法規への違反、訴訟等の有無

	確認項目	遵守結果
法律違反の有無	1. 廃棄物の処理および清掃に関する法律	2022年12月現在違反無し
	2. 羽村市美しいまちづくり基本条例	2022年12月現在違反無し
	3. 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 (騒音規制法・振動規制法)	2022年12月現在違反無し
	4. 東京都火災予防条例(消防法)	2022年12月現在違反無し
	5. 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	2022年12月現在違反無し
	6. 特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	2022年12月現在違反無し
	7. 使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 (小型家電リサイクル法)	2022年12月現在違反無し
	8. 使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	2022年12月現在違反無し
	9. フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	2022年12月現在違反無し
	10. 顧客要求事項(RoHS指令, REACH規制等)	2022年12月現在違反無し
訴訟の有無	環境関連訴訟	2022年12月現在違反無し

※関係当局よりの違反などの指摘は、2006年1月の認証・登録以降ありません。

